

今治歴史散歩

大成経凡

今治の埋もれた、魅力ある歴史文化を紹介するコーナーです。第28回は、今治市内に現存する二つの和式灯台に光を当てながら、設置背景にあった塩田史・海運史を歴史散歩したいと思います。

第28回 波止浜港・波方港^{とうみょうだい}の灯明台

●波止浜港の石造灯明台

波止浜の地に、伊予国最初の本格的な入浜塩田^{いりはま}が誕生するのは天和3（1683）年のことで、港町も同時に整備されました。逐次増築を重ねた塩田は、幕末頃には42軒^{けん}60余haの全国有数の規模となります。

高品質の塩産地で知られたことで、波止浜港は塩買船や煎熬^{せんごう}（釜焚き）燃料積載船らの寄港で賑わいました。ここに松山藩が出入船舶の監視で船番所を設置するのが元禄16（1703）年のことでした。寄港船籍は伊予国以外が多く、まさに外貨を稼ぐ伊予の小長崎、だったようです。

江戸後期になると、瀬戸内海沿岸に入浜塩田が増え、過剰生産による塩価の下落で産地は不況に苦しみます。この打開策として製塩技術の改良が進み、産地どうしの生産調整も図られました。



幕末頃の波止浜港を描いた絵馬（横田芳水画／龍神社所蔵）
※石造灯明台（左下）、円蔵寺境内（中央上）



波止浜港の石造灯明台（渡し場）
※篤志家の世話で、令和元年
12月から夜間点灯中

また、塩買船が安全に寄港できるよう、港湾整備に力を注ぐ産地もありました。

嘉永5（1852）年12月、松山藩は年来の塩田懸案事項を解決し、技術改良^{きんす}にともなう増産で功績のあった5名へ、金子の褒美を与えています。その5名は、大澤常右衛門以下、村山権次郎・長野助一郎・升屋友蔵・濱田屋長七ら波止浜の自治にたずさわる浜庄屋・町年寄らでした。

彼らの名は、嘉永2（1849）年10月に船番所前に建立された石造灯明台にも刻まれ、功労の一つが夜間寄港の安全に重要な灯明台の寄進だったことがうかがえます。当時、それが波止浜のランドマークタ

ワであったことを物語るように、龍神社所蔵の「波止浜龍神社遷宮祭礼絵馬」(慶応3(1867)年作/今治市指定文化財)にも描かれています。形状は花崗岩の切石を積み重ねた灯籠型で、現状の高さは約6mあります。銘文に刻まれた金毘羅大権現には、海上の航海安全祈願が込められています。

この灯明台の点灯期間は定かでなく、明治35(1902)年5月に円蔵寺前の海岸を埋め立てた際、現在地に移設されました。この費用は、升屋友蔵の子・八木亀三郎と濱田屋長七の孫・矢野嘉太郎の2人が工面します。埋立地には明治41(1908)年に大蔵省坂出地方専売局波止浜出張所の庁舎・塩収納倉庫が設けられ、地続きとなった大浦地区には塩田を1軒廃止して波止浜船渠(現、株新来島波止浜どっく)が設けられました。

●波方港の煉瓦造灯明台

波方地域で海運業が盛んになるのは、明治後期以降のことです。同地域最初の船主同業者組合「波方廻船組合」(現、波方船舶協同組合)の設立が明治30(1897)年3月のことで、これは前年12月に築造した港防波堤が契機となっています。

明治38(1905)年に塩専売法が施行されると、国内塩業保護の目的で全国の塩田整理が進みます。この結果、生産性の高い瀬戸内海に塩田が集中し、その面積は国内の9割を占めるようになります。当時、塩田で用いる煎熬燃料は石炭でした。この時流に乗り、波方船主の石炭船挑戦が増えたようです。『波方海運史』によると、明治44(1911)年の波方廻船組合加入の石炭船は25隻ほど(すべて木造帆船、60～170t)あり、当時は山口県宇部が主な石炭の積み地だったようです。

波方廻船組合では、大正2(1913)年に波方港防波堤の増築工事を行います。これと連動した航路標識の設置計画もあったようです。明治45(1912)年4月24日付の海南新聞などによると、波方港沖の岩礁(年越磯か)の座礁事故防止で、船主40名の篤志による灯台建設計画が持ち上がっています。一間(約1.8m)の台石の上に一間半の煉瓦を積み上げ、これを同磯へ設置するというものでした。

しかしどういうわけか、これが玉生八幡神社前の海岸に設置されることになりました。古老によれば、「波方船主が同社境内の金刀比羅宮へ献灯したもので、昭和初年の海図には航路標識として記されていた」と。も



玉生八幡神社の煉瓦造灯明台
(もとは境内外の海岸にあった)

とは砂浜の上にありましたが、昭和30年代のフェリー桟橋の工事で台石は地中に隠れました。さらに平成17(2005)年の県道拡幅工事で神社境内へ移設され、このとき花崗岩の台石が出現しました。

大正2～3年に築かれた同社玉垣には、船主名・船名を刻むものが多く確認できます。灯明台も同時期の建立と思われ、赤煉瓦であるのは、本来は岩礁に設置する私設の灯標であったからでしょう。この灯明台設置から間もなくして、大正4(1914)年に波方船主らは組合名を「波方帆船組合」(31隻)に改称しています。



大正3年の船主寄進玉垣(玉生八幡神社境内)